

ブロッコリー施肥法の改善

香西清弘

環境に影響の少ないブロッコリーの施肥法を確立するため、施用した肥料が異なる条件下でブロッコリーを栽培し、肥料成分の吸収パターンを調査した。また、ブロッコリー栽培跡地土壌中の無機態窒素及び栽培期間中の深層土壌溶液中の硝酸態窒素濃度も測定した。

1. 定植から収穫期までのブロッコリーによる肥料成分吸収量は、窒素 180~200kg ha⁻¹、リン 29~32kg ha⁻¹、カリウム 240~260kg ha⁻¹ であり、土壌からの肥料成分の供給を考えない場合の施肥効率は、慣行施肥の場合で肥料施用量に対してそれぞれ窒素 60%、リン 30%、カリウム 100%であった。

2. 基肥窒素または初期追肥の窒素量を約 60kg ha⁻¹ 減肥することにより、ブロッコリー栽培跡地土壌中の硝酸態窒素濃度は減少したが、ブロッコリーの生育、収量はほぼ同等であった。

3. ブロッコリー栽培跡地土壌中には、施用した肥料の窒素成分量の 30%程度が残存していた。また、栽培期間中に地下へ溶脱する窒素肥料成分量は、少ないものと考えられた。

キーワード:肥料吸収量,硝酸態窒素,土壌溶液,ブロッコリー